

高齢者 人付き合いの傾向で趣味活動の 始めやすさに違いがある ～関心が同じグループだと3.3倍始めやすい～

余暇活動の様々な健康効果が報告されています。高齢期に活動を始めた場合であってもその効果が期待されるという報告もあります。そのため、高齢者が活動を始めやすい環境の特徴を明らかにすることには意義があります。本研究では、データの背後にある隠れた構造を析出する教師なし学習の手法により、地域在住の日本の高齢者のうち趣味がない人の社会関係の種類を抽出し、どのような社会関係を有する高齢者が3年後に活動を開始しやすいのかを調べました。その結果、社会関係の種類によって活動の始めやすさに違いが出る(たとえば、関心を共有する人とよく会う人は、関係が疎な傾向にある人よりも3.3倍始めやすい)ことに加え、開始のパターン(以前していたのと同じ活動の再開、異なる活動の開始など)にも類型間で違いがあることがわかりました。

お問い合わせ先: 理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー 大武美保子 mihoko.otake@riken.jp
理化学研究所 革新知能統合研究センター 研究員 関口卓也 takuya.sekiguchi@riken.jp

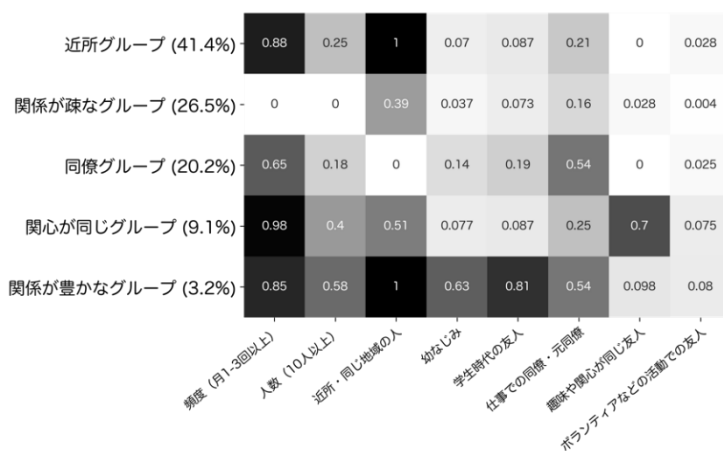


図1: 抽出された5類型における各項目への回答確率

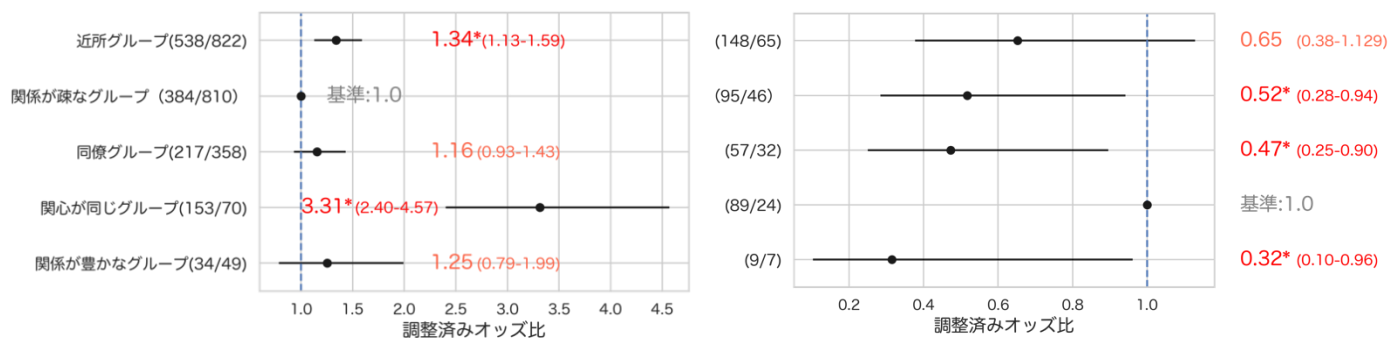


図2: 類型と(左)活動の始めやすさの関係、(右)2010と同じ趣味の再開のしやすさの関係

(左) カッコ内の左の数字は活動を開始した人数、右はしなかった人数

(右) カッコ内の左の数字は2010年と同じ活動を再開した人数、右は異なる活動を開始した人

■背景

余暇活動は高齢期になって始めた場合であっても健康効果があるとする報告がある。そのため、高齢者の活動を促す要因を明らかにすることには意義がある。その要因の一つとして考えられるのが社会関係である。社会関係は、情報交換やサポートなど、高齢者を活動的にし得る様々な機能を持つ。ただし、その内容は社会関係の種類ごとに異なることが考えられ、活動の開始に与える効果の強さも異なると考えられる。そこで本研究は、余暇活動をしていない高齢者の社会関係を類型化し、どのような社会関係を有する高齢者が3年後に余暇活動を開始しやすいのかを調べた。

■対象と方法

分析にはJAGESの2010-13-16パネルデータ(2010, 13, 16年全ての調査に参加した人のデータ)を用いた。このうち、2013年時点で趣味がなく、かつ、社会関係の質問に回答のあった3436人を分析対象とした。はじめに、潜在クラス分析(データの背後に隠れた構造を析出する手法)により、高齢者の社会関係の類型を抽出した。その後、どの類型に属していると3年後に趣味活動を開始しやすいのかを調べた。また、各類型内で各属性が趣味の開始のしやすさに与える影響は異なるのか、始められやすい具体的な活動内容は何か、2010年時点では活動していた場合、それと同じ/異なる活動を開始しているのか、などについても併せて調べた。

■結果

まず、分析対象者のうち、1327人(38.6%)が3年後に趣味を開始していた。次に、以下に示す5種類の社会関係が抽出された。グループサイズの大きい順に、(1)近所グループ(友人と会う頻度が高く、近所の人と会うことが多いがそれ以外の人と会うことが少ない傾向)、(2)関係が疎なグループ(友人数も接触頻度も低い傾向)、(3)同僚グループ(同僚と接触する傾向が相対的に高く、近所の人とは会わない傾向)、(4)関心が同じグループ(友人と会う頻度も高く、関心・趣味が同じ人とよく会う傾向)、(5)関係が豊かなグループ(友人と会う頻度も高く、様々な種類の友人と会う傾向)である。このうち、関係が疎なグループと比較した場合、関心が同じグループ(オッズ比3.31 [95%信頼区間: 2.40-4.57])と近所付き合いが豊かなグループ(オッズ比1.34 [95%信頼区間: 1.13-1.59])は、趣味活動の開始のしやすさが有意に高かった。加えて、関心が同じグループに属していて、2010年時点では趣味活動をしていない人は、(近所グループを除く他のグループの人と比べて)それと同じ活動を再開する傾向にあった(関係が疎なグループ: オッズ比0.52 [95%信頼区間: 0.28-0.94]、同僚グループ: オッズ比0.47 [95%信頼区間: 0.25-0.90]、関係が豊かなグループ: オッズ比0.32 [95%信頼区間: 0.10-0.96])。なお、どの類型においても比較的始められやすい活動は、園芸・庭いじりだった。

■結論

社会関係の類型によって、趣味活動の始めやすさ、過去と同じ活動の再開(異なる活動の開始)のしやすさ、各属性が趣味の開始のしやすさに与える影響、が異なることがわかった。

■本研究の意義

どのような社会関係を持つ高齢者にどのような活動が実践できる環境をつくるべきかを検討するための基礎的な知見になると期待される。たとえば、関係が疎なグループにはうつの対策、同僚グループには近隣環境の整備が有効かもしれない。また、今後は趣味と健康の関係についての研究との接続が望まれる。たとえば、もし、同じ趣味を継続することよりも多様な趣味を持つことの方が健康効果が大きいのであれば、関心が同じグループの近隣環境を整備することにも意義があることになる。

■発表論文

Sekiguchi T, Kondo K, Otake-Matsuura M. Types of social networks and starting leisure activities in later life: A longitudinal Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). PLOS ONE 16(7), e0254828. July 15, 2021. URL: <https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0254828>

■謝辞

本研究は以下の助成を受けて実施しました。記して感謝申し上げます。

MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan)-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities (2009-2013), JSPS (Japan Society for the Promotion of Science) KAKENHI Grant Numbers (JP18390200, JP22330172, JP22390400, JP23243070, JP23590786, JP23790710, JP24390469, JP24530698, JP24683018, JP25253052, JP25870573, JP25870881, JP26285138, JP26882010, JP15H01972, 18KT0035, 19H01138, 20H05574, 20H05022, 20H00557), Health Labour Sciences Research Grants (H22-Choju-Shitei-008, H24-Junkanki [Seishu]-Ippan-007, H24-Chikyukibo-Ippan-009, H24-Choju-Wakate-009, H25-Kenki-Wakate-015, H25-Choju-Ippan-003, H26-Irryo-Shitei-003 [Fukkou], H26-Choju-Ippan-006, H27-Ninchisyuu-Ippan-001, H30-Junkanki-Ippan-004), the Research and Development Grants for Longevity Science from AMED (Japan Agency for Medical Research and development, JP19dk0110034, JP20dk0110034), the Research Funding for Longevity Sciences from National Center for Geriatrics and Gerontology(24-17, 24-23, 29-42, 20-19), World Health Organization Centre for Health Development (WHO Kobe Centre) (WHO APW 2017/713981).